

会計と租税と、そして何より、日本の「国難」に就いて考える

准教授 神田良介

1. 研究内容

私には会計学について、忘れ難い、二つの問答の記憶が有ります。

一つ目は、昭和が終わろうとする頃、他大学の四年生だった私が、神田税務署でアルバイトをしていた時の事です。法学士と称する調査官との間に、こんな“やり取り”が有りました。

曰く「ヘーッ、神田くんは大学院に行くのかぁ……で、何やんの？ カイケーガク？？……そっかそっか、税理士ネライね。……へっ？そういう訳でも無いカモ？……？？じゃ、行ってどーすんの？『学問としての会計学を知りたいデス』って？……フーン……キミ、変わってねえ…。じゃあさ、カイケーガクって何をするガクモンなの？『僕（神田）にも未だ良く解りませんけども、世の為・他人の為・世の中のハッピーの為、何かをする学問だと思います。』だって？？……プーッ（大啜）キミ落研でしょ!!? カイケーガクでハッピーかぁ！イヤー、ウケルウケルッ!! 荒唐無稽でっ!!（啜）。」と。

もう一つは、本学大学院での事です。後期課程の先輩から、先程とは正反対の意味で忘れ難い、こんな言葉を承りました。

曰く「神田さん、もし会計学が世の中のハッピーの役に立たないんだったら、会計学の役立ちって、何か他に有るんですか？」と。前期課程の院生だった私が、神田署での“やり取り”を、心外なる問答と訴えた折、先輩が真顔で仰有ったのが、この言葉だったのです。

東日本大震災から、丸十一年が経過しています。震災後の報道は、かつて彼の地に生を受け、ついには彼の地の土となった累代の御先祖様方の智慧が、今般、彼の地に生きる多くの命を救ったことを、幾度と無く伝えました。津波被害からの復興も、津波に因る電源喪失で発生した原発事故の収束も、共に遙遠な道程です。しかし、たとえ一寸刻み五分刻みでも、復興に向け収束に向け前進している様に、私には見えます。我が祖国・日本という共同体に、連綿と蓄積され共有されて来た記憶が、震災後を生きる者供の背中を押し、教導しているかの如くに、私には思われてなりません。

新聞報道によれば、「内閣府が世界7カ国の13～29歳の男女（日・獨・佛・瑞・英・米など各千人程度 神田註）を対象に（平成25年11月から12月に 神田註）実施した意識調査で『自国のために役立つことをしたい』と答えた日本の若者の割合が54.5%に上り、7カ国中トップだった……」（『産経新聞』平成26年5月26日、3面）との事です。我が国の総人口からすれば“少数派”の若い人達が、我慾の虜になっていないのを裏付ける一つのデータと、考えます。その一方で報道は「……日本の若者の自己評価が低いことも、改めて明らかになった。」（前掲紙面）とも伝えています。矛盾するかの様な、こうした意識を持つ若い人の背中を、教員は手を変え品を変え、各自の志に沿って押したいと、熱望するものです。

以上を踏まえ、演習では、“日本の来し方に学び、行く末を模索する”事を前提に、会計と租税と、そして何より、日本の「国難」に就いて、考えを深める予定です。

2. ゼミの進め方

≪2年次≫

二・三・四年次の総てに共通で、教材について質疑応答をする予定です。各自にレジュメの作成を求めるか否かは、履修人数が確定してから教員が判断します。論文は必須ではなく、執筆希望者には所要の指導をします。なを、諸般の事情により、泊まり掛けの行事は実施しない予定です。節目節目に、文化行事や懇親会は実施する予定です。

≪3年次≫

これ迄の過ごし方を省み、今後を真面目に模索する場として、ゼミを役立てて下さい。

≪4年次≫

ゼミは肅々と開講されますから、平常心で学習して行きましょう。

3. 教材

二年次には「昭和廿年八月十五日を境に、日本人が『何を忘れ、何を忘れさせられたか？』」が解る様な書物を、三年次には「仕事をすると、どんなものか？」が解る様な書物を、そして四年次には「会計と日本との関係及び、租税と日本との関係」が解る様な書物を、それぞれ使用する予定です。具体的な事は、開講時に案内します。

4. 成績評価の方法

「教材と真摯に向き合っているか？」「質疑応答に際して正しい日本語を用いるべく努めているか？」「最低限の行儀作法をわきまえるべく努めているか？」などに基つき評価しますが、止む無く、ペーパーテストを実施する可能性も、零では有りません。

5. ゼミ入室試験（選考方法）

選考方法等は、「おー明治システム」の“グループ”中、当演習室に係る「概要」の箇所で、随時、案内する予定です。

6. その他・志願者へのメッセージなど

従来、ゼミの行事では、古賀政男音楽博物館、埼玉鉄道博物館、租税史料館、記念艦三笠、横浜元町商店街、靖国神社遊就館などを見学しました。また、“領土・主権展示館”は、今後、見学したく考えています。こうした場所に親しみが湧く人ならば、実り豊かな演習となる可能性が、高いと言えます。（了）